

「みえ森林教育ビジョン」実現のための効果検証方法の提案

令和3～4年度（森を育む人づくりサポート体制整備事業）

石川智代

三重県は、県内における森林教育を推進するため、令和2年10月に「みえ森林教育ビジョン」を策定した。小学生を中心に幼児から大人まで各年代を対象とした森林教育プログラムを作成し、このビジョンの実現に向けた取組を強化するとした。一方で、実行するプログラムがみえ森林教育ビジョンの実現に有効な内容や構成であるか検証を行うとともに、プログラムのブラッシュアップを重ねていく必要があると考えられる。そのためには、期待する森林教育の効果を明確にし、その効果検証方法も含めて森林教育プログラムを作成することが望まれる。そこで、令和4年度は、今後実施される森林教育プログラムの効果を検証するための基礎データを得る目的で、三重県の子どもが森林や木材、木との関わりにおいてどのような状況で、どのような意識を持っているのか、実態を把握するためのモニターアンケート調査を実施した。

1. キッズ・モニターアンケート「森林教育について」

アンケート調査は、三重県子ども条例に基づく「キッズ・モニター」事業を利用して実施し、三重県内在住の小学4年生から18歳までの児童・生徒等153人から回答を得た（回答率：153人/558人=27.4%）。回答した児童・生徒等は年代別に小学生57人、中学生53人、高校生43人で、居住地は20市町（津市、四日市市、伊勢市、松阪市、桑名市、鈴鹿市、名張市、亀山市、熊野市、いなべ市、伊賀市、員弁郡東員町、三重郡菟野町・朝日町・川越町、多気郡多気町・大台町、度会郡玉城町、北牟婁郡紀北町、南牟婁郡御浜町）にわたった。

アンケートの結果、9割程度の児童・生徒等が「森林」に関する思い出があり、森林や木、木材に親しみを「感じる」および「少し感じる」と回答した。他方、この1年間に森林等に親しむ体験や活動が「ない」と回答した割合は約4割を占め、その割合は小学生と比較して中学生・高校生で高くなった（図-1）。また、森林や木材、林業について教わる相手として「学校の先生」と「親など」が同程度であった。三重県在住の児童・生徒等の現状として、暮らしの中にある森林等との関わりについて認識や記憶はあるが、年代が上がるほど体験等の直接的な関わりが薄れる傾向にあった。このことから、みえ森林教育について、より多くの児童・生徒等に効果的に実践するためには学校行事として組み込むことや、児童・生徒等が「親など」に成長して社会を担うことを踏まえて子どもから大人まで一貫した体系化することが必要と考えられた。

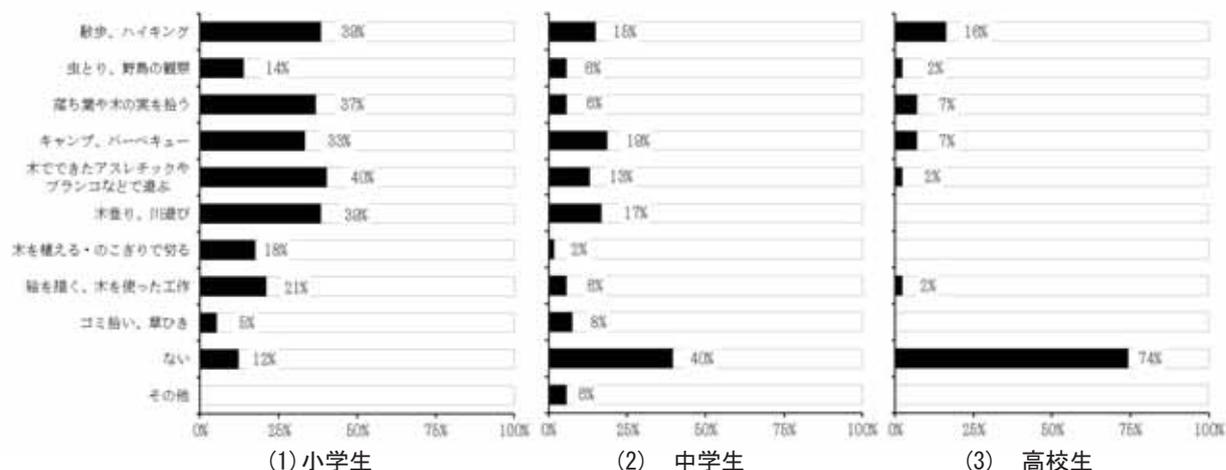


図-1. この1年間に行った森林や木、木材に親しむ体験や活動。年代ごとの回答者数を分母とした選択項目ごとの回答者の割合を示す。